

13 環境学習関係

13－(1) 名水百選

環境庁（現環境省）は、昭和60年度、全国に多くの形態で存在する清澄な水について、その再発見に努め、広く国民にこれらを紹介し、普及・啓発を図るとともに、このことを通じて国民の水質保全への認識を深め、併せて優良な水環境を積極的に保全すること等今後の水質保全行政の進展に資することを目的として、全国から100ヶ所の「名水」を選定し、本県からは下表に示す3つの「名水」が選ばれました。

名水が存在する栗野町、屋久町、上屋久町、川辺町の4町は「名水百選」選定の趣旨に基づき、水質環境保全のための事業を行うことを目的として、昭和60年10月に「名水百選鹿児島協議会」を発足させ、活動を行っています。

なお、平成8年度には、屋久島において、名水百選の所在する市町村で組織する全国水環境保全市町村連絡協議会の第12回全国大会及びシンポジウムが開催されました。

名水百選一覧（本県分）

名 称	所 在 地	分類	概 要
霧島山麓丸池湧水	始良郡湧水町	湧水	霧島山麓の湧水群の1つで、湧水量は約20万m ³ /日と豊富、湧水は上水道・生活用水・灌漑用水として用いられている。町内会で組織する保全組合が清掃等保全管理を行っている。
屋久島宮之浦岳流水	熊毛郡屋久町 熊毛郡上屋久町	河川	九州の最高峰宮之浦岳を主峰とする屋久島は年間降水量が5,000mmを越え、また原生林に覆われていることから、豊富な水量があり、安房川をはじめとして多くの河川、滝等がある。地元町でも自然環境と一体となった水環境保全に努めている。
清水の湧水	川辺郡川辺町	湧水	シラス台地急崖下からの湧水で地域住民の飲用水・生活用水・灌漑用水として利用されている。かつて、地域住民が組織した保全委員会が管理していたが、町上水源になってからは町が管理している。

13－(2) 音風景100選

全国各地で、人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（音風景）について、音環境を保全する上で、特に意義があると認められるものを、「残したい“日本の音風景100選”」として、環境庁が認定したものです。

主なねらいは、「日常生活の中で耳をすませば聞こえてくるような様々な音についての再発見を促すこと」、「良好な音環境を保全するために地域に根ざした取組みを支援すること」とされ、本県からは、「出水のツル」（出水市）と「千頭川の溪流とトロッコ」（屋久町）が選定されています。

音風景の名称・所在地	分類	概 要
出水のツル （出水市）	鳥	冬鳥として渡来するナベヅル、マナヅルの我が国最大の越冬地。地域の人々の永年の愛護活動により、約1万羽が飛来し、多数のツルの鳴き交わす様は壮観である。
千頭川の溪流とトロッコ （屋久町）	複合	屋久杉の山を流れる千頭川に沿って、溪流の音の中を森林軌道のトロッコが走る。世界遺産の島・屋久島の自然にふれる“動く環境教室”として活用しようという計画がある。

13－(3) かおり風景100選

平成13年、環境省は、豊かなかおりとその源となる自然や文化・生活を一体として将来に残し、伝えていくため、かおり風景を広く募集し、そのなかから、特に優れた100地点を「かおり風景100選」として選定しました。

100選には、花や樹木、潮風、温泉、みかん・カボス・りんご等の果物などの自然の香りのほか、にかわ、墨、線香、茶、塩わかめづくりなどの伝統工芸や地方の特産などに関わるものなど様々なかおり風景が選定されており、本県からは、「指宿知林ヶ島の潮騒」（指宿市）と「屋久島の照葉樹林と鯖節」（上屋久町）が選ばれています。

かおり風景の名称・所在地	源	季 節	概 要
指宿知林ヶ島の潮騒 （指宿市）	潮 草木 樹木	一年中	鹿児島湾（錦江湾）の入り口に浮かび、干潮時には砂の道（砂州）で薩摩半島と陸続きになる無人島です。砂州を渡って多くの観光客や家族連れが訪れ、潮のかおりを満喫しています。
屋久島の照葉樹林と鯖節 （上屋久町）	森林 潮 鯖節	一年中	世界自然遺産に連なる大規模な照葉樹林が集落に肉薄しており、「もののけ姫」の舞台となった白谷の森から吹きおろす風にのって花のかおりが漂います。また、地元特産の鯖節のかおりも漂います。